



2009(平成21)年みんなの力で新たな横浜が動き出します

横浜開港150周年

[市政120周年]記念事業概要

150th Anniversary of the Opening of the Port of Yokohama



横浜市歌

森 林太郎(鷗外) 作詞
南 能衛 作曲

〔原歌を当用漢字、新かなづかいに改めた〕

わが日の本は島国よ

朝日かがよう海に

連りそばだつ島々なれば

あらゆる国より舟こそ通え

されば港の数多かれど

この横浜にまさるあらめや

むかし思えば とま屋の煙

ちらりほらりと立てりしところ

今はも舟もも千舟

泊るところぞ見よや

果なく栄えて行くらんみ代を

飾る宝も入りくる港

この市歌は、横浜開港50年を記念してつくられました。



横浜開港150周年[市政120周年]記念事業概要 2009[平成21]年3月発行

横浜市開港150周年・創造都市事業本部 150周年記念事業推進課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL 045-671-4170 FAX 045-663-1928
横浜市広報印刷物登録第 200099号 類別分類 B-DK010

この表紙は、「横浜海岸各国商館図(三代広重)」(横浜中央図書館所蔵)をもとにデザインしたものです。



「チャンスあふれるまち 横浜」の創造

基本理念：5つの契機*の実現をととした

～開港150周年基本ビジョンより～

- 1** 港と先人の業績への感謝及び賞賛
- 2** 市民であることの一体感の醸成
- 3** 夢や希望にあふれるまちへの礎をつくり、その魅力を発信しながら再発展を図る
- 4** 「横浜らしさ・ならでは」へのこだわりと創造
- 5** 大きな盛り上がり創出とプロモーション活動強化による集客力向上

5つの契機を実現するための4つのプロジェクト（開港150周年記念事業概要の構成）

① 横浜開港「ハッピーバースデー」プロジェクト

横浜開港150周年記念式典 → 6ページ

- 2009(平成21)年5月31日(日) パシフィコ横浜国立大ホール
- ・セレモニー
 - ・宮本亜門オリジナルショー
 - ・横浜の歴史や開港にちなんだ館内展示・映像



祝祭イベント → 7ページ

- ・H.I.S.2009年世界卓球選手権横浜大会
- ・日本大通りフラワーアートフェスティバル
- ・海フェスタよこはま
- ・2009横浜国際トライアスロン大会
- ・大道芸・横浜パレード・開港祭 など



記念テーマイベント「開国・開港Y150」 → 10ページ

- ベイサイドエリア** みなとみらい21新港地区周辺
会期：2009(平成21)年4月28日(火)～9月27日(日)
- ヒルサイドエリア** よこはま動物園ズーラシア隣接地区
会期：2009(平成21)年7月4日(土)～9月27日(日)
- マザーポートエリア** 横浜駅周辺から山下・山手地区
会期：2009(平成21)年の年間を通じて展開
- 市民参加イベント** 横浜FUNEプロジェクト/DO-RA-MA YOKOHAMA 150/横浜・開港キャンドルカフェ150



都心臨海部の開港150周年記念事業関連マップ → 14ページ

横浜開港150年の歴史 → 4ページ

- ・横浜発展史
- ・横浜の発展史を学び、体験できる事業の紹介



祝祭

まち・みなと



ひと



② 横浜の新たな顔づくり・まちづくり推進プロジェクト

新たな顔づくり → 16ページ

- ・象の鼻パーク整備
- ・マリインタワー再整備
- ・アメリカ山公園整備
- ・日本丸メモリアルパーク(第1期地区)リニューアル など

文化芸術創造都市形成 → 17ページ

- ・ナショナルアートパーク構想
- ・横浜国際映像祭2009
- ・創造界限
- ・世界創造都市会議(仮称)
- ・創造の担い手育成

まちづくり → 20ページ

- ・横浜駅周辺大改造計画
- ・戸塚駅周辺地区整備
- ・市内米軍施設の返還と跡地利用の推進
- ・羽田空港の国際化 など

③ 市民力・地域力発揮プロジェクト

→ 22ページ

- ・文化芸術の持つ創造性を活かした地域づくり
- ・市民の手による様々なイベントの開催支援
- ・「150万本植樹行動」と「150周年の森」づくり
- ・障害者スポーツ文化事業
- ・地域の魅力を高め、愛着を深める取り組み など

④ 次世代育成・人材育成プロジェクト

→ 28ページ

- ・小中一貫英語教育の推進
- ・世界こどもスポーツサミットin横浜
- ・起業家育成・支援
- ・横浜サイエンスフロンティア高等学校の整備
- ・芸術文化教育プログラム
- ・子育て家庭応援事業「ハマハグ」 など

開港150周年を迎え、さらなる国際的な発信力を高めていくための都市戦略の取り組み → 30ページ

- ・ポート・タウン・フェスティバル
- ・2009年シティネット横浜大会の開催
- ・2010年APEC首脳会議の誘致



横浜開港、明治・大正へ



横浜海岸通之図 (横浜中央図書館所蔵)

2009(平成21)年に横浜は、1859(安政6)年に開港してから150周年を迎えます。

開港以前の現横浜地域における最大の人口密集地は、東海道の宿場町で、人口5,000人ほどの神奈川宿でした。この神奈川宿の東南約4キロに、後に「横浜市歌」(森鷗外作詞)で「むかし思えばとま屋の煙 ちりりほらりと立てりしところ」とうたわれる、戸数100ほどの半農半漁の寒村、横浜村がありました。

この横浜村で、1854(安政元)年日米和親条約が締結され、その4年後の日米修好通商条約の締結によって神奈川に開港場が置かれ、1859(安政6)年7月1日(旧暦6月2日)、横浜は開港しました。新しく生まれた横浜は、開国日本・新生日本の象徴となり、その魅力にひかれ、内外から多くの人々が集まり、質の高い文化交流が生まれました。

来浜外国人は、新生日本(「ヤングジャパン」と呼ばれた。)の魅力と熱気にひかれた文化人や貿易商・技術者が多かったのが特色です。彼らは、日本人が世界最先端の技術や思想を展開したいと思うなら、それに進んで協力したいと考える、ボランティア精神のあふれる人々でした。彼らの多くが、交渉条約を導いた幕府と好奇心あふれる庶民の熱意を感じ取り、横浜にヒト・モノ・カネ、そして情報をもたらしました。日本全国各地から集まった人々は、内外の先進的な産業や文化を積極的に吸収しようとする「進取の気性」に富み、因習にとらわれず、それぞれの出身地の文化を横浜において融合させようとする「開放性」を作り上げていきました。その良循環が、横浜市民気質となっていたのです。

1889(明治22)年、横浜(人口約12万人)は市制を施行し、さらに1909(明治42)年には開港50周年を迎えました。その年には、現在でも多くの市民に親しまれている市章や森鷗外作詞の横浜市歌が発表され、市民の寄付によって開港記念横浜会館(現、横浜市開港記念会館)が建設されました。(完成年度は1917(大正6)年)

明治の末期から大正にかけては、市民生活の面においても、伊勢佐木町の芝居観劇やテニス・野球などのスポーツが盛んに行われ、国際都市らしい市民文化を花咲かせました。また、1910(明治43)年の横浜経済協会の設立により、工業誘致が本格的に始められるなど、多くの地元経済人が横浜を発展させたのもこの時代です。



開港記念横浜会館[現、横浜市開港記念会館](横浜市史資料室所蔵)

震災・戦争・復興そして日本第2の都市へ

1923(大正12)年9月1日、関東平野南部を震度6の大地震が襲い、横浜は建物の倒壊や火災で壊滅的な被害を受け、横浜経済は崩壊し、多くの外国商館も東京・大阪などへ移転しました。

しかし、その後市民の努力により復興を遂げ、1930(昭和5)年には市内のがれきの埋め立てでできた山下公園が開園、1935(昭和10)年には、くじらを山下公園前の海に泳がせるなどのイベントを中心とした復興記念横浜大博覧会を開催しました。また、横浜港からの輸出品目としては、生糸貿易が中心であったのが、1942(昭和17)年ごろから機械類、金属製品及び鉄鋼などが貿易の主流となって、現在に引き継がれています。

この間、横浜は市域を拡大し続けました。1939(昭和14)年の大規模な合併によって、現在とほぼ同じ市域になり、1942(昭和17)年には人口100万人を突破しました。

また、時代は金融恐慌、失業者の増大、軍需の拡大と続き、第2次世界大戦へと突入しました。そして、1945(昭和20)年5月29日の横浜大空襲までの度重なる空襲によって、被災人口約40万人、少なくとも約1万人が死亡し、横浜の中心部は焼け野原になりました。

戦争終結とともに、横浜の約27%、港湾施設は約90%が連合軍に接收され、横浜の復興は他都市に比べ大幅に遅れました。しかし、焦土と化した横浜から市民は立ち上がり、1949(昭和24)年には、野毛や反町で日本貿易博覧会が開催され、横浜市民を元気づけました。一方、横浜港では海外から多くの客船が訪れたり、ハワイや南米などに新天地を求めた移民船が大さん橋から出航したり、人の交流も盛んになりました。



開業当時のマリンタワー

また、横浜で生まれた美空ひばりが、日本の戦後の歌謡界へ新たな旋風を巻き起こしたり、ジャズやリズム&ブルース等がアメリカから横浜にいち早く入り、横浜発の文化として日本中へ広がっていきました。

1958(昭和33)年、横浜は開港100年目の年を迎え、開港百年祭が開催されました。これを記念してマリントワーや横浜文化体育館などが建設され、氷川丸が山下公園に係留されました。

日本の高度成長期への突入とともに、横浜の沖への埋め立てが加速化しました。そして昭和40年代の横浜港のコンテナ時代の到来によって、大型港湾化が推進されました。また、1968(昭和43)年には人口200万人に達し、人口の急増に併せて市郊外での団地や宅地造成が行われ、ベッドタウンそしてニュータウンとしての新たな横浜の都市像を形成しました。そして、1978(昭和53)年には、人口は272万人に達し、全国第2位の規模をもつ大都市へと成長しました。

平成から現在、364万都市横浜へ

1989(平成元)年には、市政100周年・開港130周年記念として横浜博覧会が開催され、約1,333万人を動員しました。また、同じく記念事業として、横浜美術館、横浜アリーナ、横浜ベイブリッジなどが建設されました。

21世紀を迎えて、2002(平成14)年6月、ワールドカップ決勝戦が横浜で開催され、その試合の様子が全世界に発信されました。また、同年10月に人口は350万人を超え、現在も人口は増え続けています。

その後も、2004(平成16)年には待望のみなとみらい線が開業するなど、2009年に向け横浜は発展し続けています。



横浜国際総合競技場



ベイブリッジ開通直後の横浜港(横浜市史資料室所蔵)

(平成17年6月発行「横浜開港150周年～市政120周年～基本ビジョン」から転載)

横浜開港150周年を契機に、横浜の発展史を学び・体験できる様々な事業が実施されます。

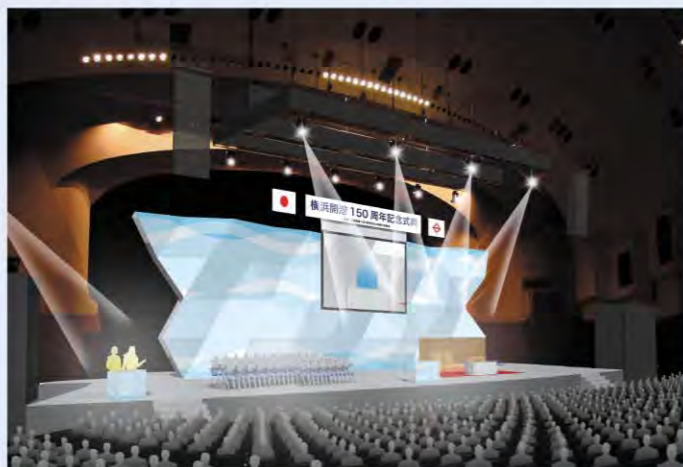
- 開港150周年記念出版** 行政運営調整局法制課 ☎251-3260
 昭和期を対象にした『横浜市史II』(全16冊)の編集成果を引き継ぐ横浜市史資料室が、開港150周年を記念し「写真が語る横浜の昭和史」(仮称)を編集・発行します。・2009(平成21)年6月予定
- 横浜能楽堂特別企画公演・特別展「海を渡った能装束」** 横浜市芸術文化振興財団 ☎263-3055
 横浜開港150周年を記念し、日本から流出し、約120年前にドイツでオペレッタ「ミカド」の衣裳に転用された江戸時代の能装束を里帰りさせ、修復の後、展示します。また復元され鮮やかに甦った同装束を用い、能とオペレッタを上演します。
 【公演】2009(平成21)年6月6日(土)、7日(日) 横浜能楽堂、横浜市開港記念会館
 【展示】2009(平成21)年5月1日(金)～6月7日(日) 横浜能楽堂二階展示廊
- 横浜大衆芸能史落語** (財)横浜市芸術文化振興財団(横浜にぎわい座) ☎231-2525
 横浜ゆかりの人気落語家・柳家喬太郎師匠が、開港当時の横浜大衆芸能史を紐解き、新作落語の制作・発表を行います。
 ・2009(平成21)年6月26日(金)～28日(日) ・横浜にぎわい座 芸能ホール
- 原三溪を学ぶ、原三溪に学ぶ** (財)三溪園保勝会 ☎621-0634
 横浜の経済・文化の発展に大きな功績を残した三溪・原富太郎(1868～1939)。その事跡を詳細に記した藤本實也の未刊の稿本『原三溪翁伝』を、原三溪市民研究会のメンバーとともに校訂し刊行するとともに、三溪の手稿などの一次資料の調査、三溪旧蔵の美術品のデータベース化などに取り組みます。
- 横浜歴史体験・発見ツアー150(仮)** 教育委員会事務局生涯学習課 ☎671-3281
 児童生徒を対象に市役所をはじめとする様々な仕事を見学・体験できる『子どもアドベンチャー』の一環として、開港以後の150年の歴史に出てくる建物、橋、地名、展示物等の本物を自分の目で確かめ、横浜の歴史を巡るガイドツアーを行います。
 ・2009(平成21)年8月
- 開港150周年記念展示** (財)横浜市ふるさと歴史財団 ☎912-7771
 横浜開港150周年を記念し、横浜開港資料館、横浜市歴史博物館、横浜都市発展記念館、横浜コーラシア文化館などで、開港にちなんだ企画展や講座・講演会などを開催するとともに、「図説 横浜 歴史と文化」を刊行します。
- 横浜開港150周年記念図書(仮称) 横浜港物語～港をつくった人々～** (社)横浜港振興協会 ☎671-7241
 横浜の原点というべき「港」に焦点を当て、その誕生からの歩みを写真や図版をふんだんに使って振り返ると共に、多くの困難を克服して現在の横浜の礎を築いた先人の業績やエピソードを紹介する記念図書を発行します。
 ・2009(平成21)年5月予定

開港150周年を記念して、先人の業績や歴史を知る機会にするとともに、「チャンスあふれるまち」の創造に向けて、横浜全体がお祭りムードあふれるような、記念式典や記念イベントを多くの市民や企業とともに開催します。

横浜開港150周年記念式典

150周年記念事業推進課 ☎671-4077

横浜開港150周年記念事業の中心的な公式行事として、今日の繁栄の礎を築いた先人の業績に感謝し、誇りを共有するとともに、より一層の発展の契機とするために式典を開催します。この式典開催をとおして、次世代に続く夢や希望を共有できる都市の未来像を、全国へ、世界へ発信していきます。



- 開催日** 2009(平成21)年5月31日(日)
会場 パシフィコ横浜 国立大ホール
招待者 約2,000人 一般公募市民 約2,000人
内容 ①セレモニー
 ②宮本亜門オリジナルショー
 ③横浜の歴史や開港にちなんだ館内展示・映像

宮本亜門オリジナルショー

短いながらも波乱万丈の横浜開港150周年の歴史を織り込みながら、未来の横浜の姿を発信していく、歌、踊り、映像、音楽などのパフォーマンスを駆使したエンターテインメント。

- 作・演出：宮本亜門
- 出演者：横浜ゆかりの俳優及び歌手、横浜市内のパフォーマンス団体、多数の横浜市民
- 「好きな横浜ゆかりの歌」や、「思い出に残るエピソード」等についての市民アンケートの結果をシナリオに活かします。
- より多くの方にご覧いただくため、式典での上演とは別に、ショーだけの単独公演を行います。



開港150周年記念式典
プロデューサー
宮本 亜門



横浜開港150周年祝祭イベント

開港150周年記念新春安全・安心フェスティバル

安全管理局総務課 ☎334-6768

2009(平成21)年1月10日(土) 赤レンガ倉庫イベント広場

開港150周年の幕開けである年頭に、従来の出初式にとらわれないスタイルで市民の皆さんが見て・触れて楽しみながら安全と安心を実感できるイベントを開催します。火消しの伝統を今に伝えるはしご乗り、消防職員による救助技術などのパフォーマンス、消防ヘリ・消防艇による放水や我が家の安全・安心の紹介、最新の消防車両・装備の展示など開港から現代そして次世代へと安全・安心をつなぐ内容を予定しています。



H.I.S.2009年世界卓球選手権横浜大会

市民活力推進局スポーツ振興課 ☎640-5572

2009(平成21)年4月28日(火)～5月5日(火・祝) 横浜アリーナ



出場・活躍が期待される福原愛選手(ANA所属)

国際卓球連盟が主催し、世界中からトップクラスの選手が参加する最も権威がある卓球の国際大会で、第50回の節目となる横浜大会では個人戦が開催されます。

日本大通りフラワーアートフェスティバル

道路局企画課 ☎671-2779

2009(平成21)年5月2日(土)～4日(月・祝) 日本大通り

日本で初めての西洋式街路であり、横浜の歴史と文化を象徴する日本大通りをキャンパスとして、花びらを用いて花絵を描く、市民参加によるフラワーアートのイベントを開催します。



フラワーアートフェスティバルイメージ

横浜開港150周年祝祭イベント

海のエジプト展 ～海底からよみがえる古代都市アレクサンドリアの至宝～

150周年記念事業推進課 ☎671-4170

2009(平成21)年6月27日(土)～9月23日(水・祝) 89日間(予定)

パシフィコ横浜展示ホールD

クレオパトラも愛したエジプトの古代都市、アレクサンドリア・ヘラクレイオン・カノーブという3つの古代都市の海底遺跡からの発掘成果を紹介する展覧会です。巨大な石像や女神像、金や宝石で彩られたアクセサリーなど約490点の作品を日本初公開します。



海底に眠る石像



引き揚げの様子



© Franck Goddio/Hilti Foundation

海フェスタよこはま

港湾局振興事業課 ☎671-7188

2009(平成21)年7月18日(土)～26日(日)を中心に開催



帆船一般公開イメージ

横浜港とその周辺地区において、船舶の一般公開、物流施設見学会、シンポジウムや講演会、コンサートなどのイベントを開催する予定です。

「海フェスタ」は、「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」という「海の日」本来の意義を再認識し、海に親しむ環境づくりを進めることを目的として開催されています。



FESTIVAL

2009横浜国際トライアスロン大会・世界キッズトライアスロン大会

市民活力推進局スポーツ振興課 ☎640-5539

2009(平成21)年8月22日(土)・23日(日) ※キッズは23日のみ 山下公園・関内周辺地区

横浜開港にゆかりのある山下公園、開港広場、日本大通り等のコースを世界のトップアスリートが駆け巡ります。スピード感あふれるレース展開にご期待ください。



© Satoshi Takasaki/JTU



関連集客イベント

150周年記念事業推進課 ☎671-4170

毎年実施している集客イベントも、祝祭イベントとして開港150周年を一層盛り上げます。



ザよこはまパレード

- ・大道芸 [4月中・下旬]
- ・ザよこはまパレード [5月3日(日)]
- ・横浜開港祭 [6月1日(月)・2日(火)]



横浜開港祭

横浜グランドミュージアム ～ヨコハマ文化を語りつぐ、100館のミュージアムズ～

(財)横浜観光コンベンション・ビューロー ☎211-1202

開港150周年を機に「横浜、発掘。」をキーワードとして、博物館、美術館、資料館等ミュージアムが開港150周年記念展示を実施し、各館連携による『ミュージアムガイドブック』の発行等、一体的な情報発信を行います。また、交通機関と連携したミュージアムラリーを実施し、回遊性を高めます。

横浜・神奈川デスティネーションキャンペーン 経済観光局観光交流推進課 ☎671-2596

2009(平成21)年6月～8月

JRグループ6社、横浜市、観光関連事業者等が一体となって、横浜開港150周年記念事業を核とし、横浜の魅力面向全国に向けてアピールする国内最大規模の大型観光キャンペーン。

キャンペーン期間中は、JRの媒体(全国の駅、電車内の中吊り広告等)やテレビコマーシャル等による広報宣伝、観光関連事業者による期間限定の誘客事業の展開により、全国から横浜への集客を図ります。

野毛地区インフォメーションセンターオープン 都市整備局都市再生推進課 ☎671-4051

開港150周年記念事業や、野毛地区周辺で行なわれる各種イベント情報等を案内するインフォメーション施設を、地域と行政の協働により設置・運営し、来街者を対象に、地域と横浜の魅力のアピールします。



FESTIVAL

(財)横浜開港150周年協会 ☎222-0150

7つの種をコンセプトに3つのエリアと8つの会場で展開



ベイスайд
エリア

みなとみらい121
新港地区周辺

会期：2009(平成21)年4月28日(火)～9月27日(日)153日間
時間：10:00～22:00 ※一部会場は異なります。

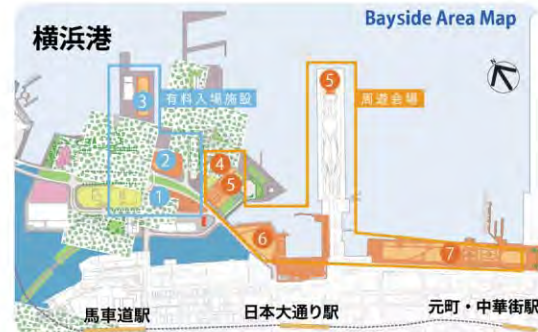
横浜の原点でもある海と港の景観の中に複数のイベント会場が集まる記念イベントの中心エリア。3つの有料入場施設と4つの周遊会場で構成。大型エンターテインメント展示、大型映像、催事会場などを多彩に展開し、夜間は華やかなナイトショーやライトアップがにぎわいを演出します。



記念テーマイベント
総合プロデューサー
小川 巧記



記念テーマイベント
アートプロデューサー
日比野 克彦



ベイスайдエリアマップ

1 Y150はじまりの森 新港地区8街区 会場テーマ「共生力」のたね

これまでの横浜の150年の歴史を紹介する「横浜ものがたり」と、フランスの世界的スペクタクルアート劇団「ラ・マシン」が日本初公開！Y150でしか見られないパフォーマンスをお楽しみください。

ENEOS ラ・マシン…「ラ・マシン」が製作する、高さ約12mの巨大生物オブジェのスペクタクル。横浜の街が劇場に変わる！

横浜ものがたり…ペリー響応の間をモチーフとした「時の旅人シアター」や、横浜の港と街を築いた先人達をテーマとした大型映像シアター「横浜開港物語」、横浜のはじめてにちなんだワークショップを「たまくすの学び舎」で展開します。

ENEOSナイトピクニック…夜間は「ナイトピクニック」をテーマにしたライトアップ演出で、夜の「涼」を演出します。

黒船レストラン…開国・開港をイメージしたフードコートを展開します。



2 Y150トゥモローパーク 新港地区7街区 会場テーマ「共感力」のたね

人気映像作家・岩井俊二氏がプロデュースするアニメーション映画を上映する「Y150未来シアター」と、さまざまなパフォーマンスを展開する「トゥモローパークステージ」を中心に、夜空に浮かぶバルーンによる環境ショーなど、一大エンターテインメントゾーンとして展開します。



Y150未来シアター…岩井俊二氏が初のアニメーション作品プロデュースに挑戦！横浜と日本の未来へのメッセージをテーマにした映画「パトン」を上映します。

トゥモローパークステージ…開国・開港5カ国5都市によるイベントや、たねまるイベントなど、海を身近に感じながら楽しめるステージイベントを展開します。

アースバルーン…宇宙飛行士・向井千秋氏の原案・シナリオによるダイナミックな地球環境物語です。

3 NISSAN Y150ドリームフロント&スーパーハイビジョンシアター 新港ふ頭 会場テーマ「想像力」のたね



「地球への思いやり活動」を世界へ。日産自動車が提供する、こどもと環境がテーマの参加型パビリオン。最新技術や環境への取り組みを遊びながら学べる体験プログラムもいっぱいです。

4 赤レンガ会場 広場 会場テーマ「交流力」のたね

開港5カ国・5都市や横浜と関係の深い地元・地方自治体や国内外諸公共団体によるシティセールス観光案内・物販ゾーンとしての「都市交流広場」、「5カ国5都市常設展示」、ショッピングゾーンとしての「ワールドマーケット」、飲食ゾーンとしての「ワールドグルメ」を展開します。

※開港5カ国：アメリカ・オランダ・ロシア・イギリス・フランス
※開港5都市：函館・新潟・横浜・神戸・長崎

5 大さん橋会場・赤レンガ会場 1号館 会場テーマ「交流力」のたね

横浜ゆかりのFUN E(船)の制作ワークショップや展示を行なう「横浜FUN Eプロジェクト」のほか、18区による区ごとのステージイベント、Y150市民参加プラトホーム主導によるテーマ型市民参加イベントなどを展開します。

6 象の鼻会場 (6/2~)

会場テーマ「創造力」のたね

日比野アートプロデューサー監修によるフネと灯台のアートワークを開催するとともに、地面に描かれた黒船の絵が立体的に浮かび上がるトリックアートのフォトポイントを配します。また、来場者がゆっくりくつろげるホスピタリティスペースとします。

7 山下公園会場

会場テーマ「横浜力」のたね

黒船来航イベント…黒船を彷彿させる外輪型蒸気帆船が来航し、開国当時のイメージを現出させる光と音のスペクタクルショーを実施します。

ミニアトラクション…黒船来航にあわせ、ペリー来航時の姿に扮した演者によるパフォーマンスを展開します。



ヒルサイド
エリア

スーラシア
隣接地区

Y150つながりの森

会場テーマ「市民力」のたね

会期：2009(平成21)年7月4日(土)～9月27日(日)86日間

時間：9:30～17:30

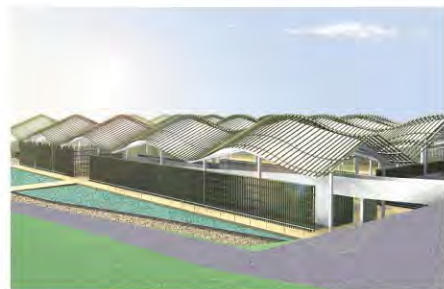
※但し、8月の毎週土日及び、
9月19日～27日の19日間は
9:30～20:30



横浜で伐採した竹で作る、日本最大級の竹の大屋根「竹の海原」が会場中央に出現します。横浜の市民自らが中心となって企画出展する「市民創発プロジェクト」が展開され、自然あふれる会場で、トークショーやワークショップ、パフォーマンスなど、様々な参加体験ができるプログラムを展開します。

竹の海原…

ヒルサイド会場の中央には、会場のシンボルとなる「竹の海原」(竹の構造物)があります。「竹の海原」は、里山の自然を復活させるために、放置された竹林などからその多くを伐採します。このうちの一部は、市民と協働して伐り出します。



市民創発プロジェクト…

「私からはじめるこれからの150年」をテーマに、市民が議論を重ね、横浜が元気になるプロジェクトを創り上げるワークショップがスタート。多様な出展内容が大集合します。



第20回全国「みどりの愛護」のつどい

ヒルサイドの会場では、2009(平成21)年4月19日(日)に全国の公園緑地の愛護団体等、緑の関係者が一堂に集い、緑豊かな潤いのある住み良い環境づくりを推進することを目的に、第20回全国「みどりの愛護」のつどいが開催されます。会場では、みどりの愛護活動事例紹介、記念植樹などを予定しています。

環境創造局みどりの愛護のつどい担当 ☎671-4219



FESTIVAL

マザーポート エリア



横浜駅周辺～
山下・山手
地区

会期：2009(平成21)年の年間を通じて展開

Y150ベイサイドエリアを囲む横浜駅周辺から山下・山手地区までを、地元商店街や市民、NPOなどと連携し、Y150と街の一体感の醸成や回遊性を高める取り組みにより、エリア全体の盛り上げと来街者の満足度向上を目指していきます。

たねまるマップ…横浜の魅力が凝縮されたマザーポートエリアを隅々まで体験していただくために、お勧めスポットを紹介するマップを発行します。

たねまるPRキャラバン…横浜開港150周年記念事業のマスコットキャラクター「たねまる」をマザーポートエリアに派遣し、開港150周年をPRしていきます。

回遊促進スタンプラリー…エリア内に設置された数ヶ所のポイントを巡るスタンプラリーを実施します。

まちあるき「横浜達人ツアー」…横浜のまちをよく知る達人たちが、地元しか知らないマザーポートエリア内の穴場スポットを紹介していきます。

地元商店街等主催イベント…横浜の元気な各地の商店街等で様々なイベントを開催します。

市主催、共催イベント…クリエイティブシティ施策など、横浜市の魅力伝えていくためのイベントをマザーポートエリア内各地で開催していきます。

市民参加 イベント 横浜FUNEプロジェクト



FUNE(船)とともに発展し続ける「都市ヨコハマ」の象徴的な事業として、市内の区民利用施設、中学校等で、横浜港の歴史を彩ってきた実際の船をモチーフに、ダンボール等の素材を使ったFUNEを日比野克彦アートプロデューサー監修のもと、市民参加により150艘制作します。

2007(平成19)年から2009(平成21)年に制作し、大さん橋会場に展示する予定です。

DO-RA-MA YOKOHAMA150 ～創合演劇プロジェクト～

出演だけでなく、脚本のネタ探しから舞台技術全般・広報・記録など、専門家の指導を受けながらすべて市民で行う、国内初となる「市民参加型演劇プロジェクト」です。

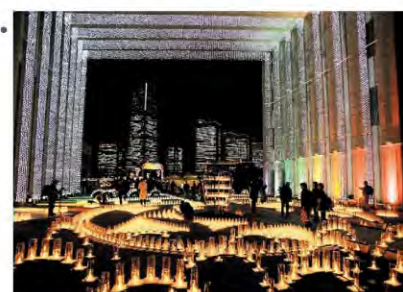
これまで史実調査を行い「脚本の種」を脚本家に手渡し、プロット(構成脚本)が完成。2008(平成20)年6月よりスタッフと出演者を募集しています。

2009(平成21)年8～9月に公演を予定しています。(関内ホール、市内公会堂、区民文化センターなど8区9会場を予定)



横浜・開港キャンドルカフェ150

～Road to YOKOHAMA 150 Years～



横浜ならではの舞台装置(夜景)の中できらめき輝くキャンドルの灯りが、横浜の歴史や先人たちへの想いを醸成する暖かい空間を演出し、幅広い世代が参加できる心温かいイベントとして、2006(平成18)年から実施しています。

2008(平成20)年は10,000灯を、2009(平成21)年には150周年を締めくくるイベントとしてベイサイドエリアを華やかに荘厳なキャンドルが彩ります。

FESTIVAL

Yokohama

都心臨海部の開港150周年記念事業関連マップ

横浜港

PORT OF YOKOHAMA



凡例 Legend

- 開港150周年記念式典・記念テーマイベント会場 [マップ全体がマザーポートエリアの範囲]
- 有料入場施設
- 周遊会場
- ナショナルアートパーク構想 3つの重点取組地区
- 横浜の新たな顔づくり 推進プロジェクト
- 創造界隈モデル地区
- 文化芸術創造都市 関連施設

これまで蓄積されてきた横浜ならではの歴史的資産を活かしながら、新たな横浜の魅力づくりを進めていきます。みなとまちとして生まれ、発展してきた横浜の持つ個性をいっそう磨いていくため、横浜港発祥の地の再整備や文化芸術の持つ創造性を活かした都市づくりなどを進めていきます。また、次世代の横浜再発展に向け、その基盤となるようなまちづくりも同時に進めていきます。

新たな顔づくり

横浜港発祥の地である象の鼻地区の整備推進により、横浜ならではの空間を演出し、新たな港の顔、市民の憩いの場、交流の場としていきます。

また、文化芸術による創造性あふれるまちづくりを目指し、都心臨海部を中心として、開港都市としての歴史や文化等の資源を活かし、国際的な文化芸術・観光交流ゾーンや創造界隈の形成、映像文化産業など創造的産業の集積に向けた取り組みを進めます。

象の鼻パーク整備

港湾局企画調整課 ☎671-2881

開港150周年を記念する事業として、横浜港発祥の地である象の鼻地区を横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的空間として再整備するとともに、ナショナルアートパーク構想の拠点の一つとして、同地区の特徴を活かした文化観光交流拠点としても活用を図ることができるよう整備します。



象の鼻パーク夜景イメージ

2009(平成21)年 6月2日オープン予定

象の鼻とは…

1859(安政6)年の横浜港開港にあたり東波止場と西波止場の二本の直線状の波止場が造られました。その後、1867(慶應3)年に東波止場は湾曲した形に変更され、その形状から「象の鼻」と呼ばれるようになりました。



象の鼻テラス完成イメージ



マリントワー再整備

経済観光局事業調整課 ☎671-4079

開港100周年を記念して建設され、長年に渡り市民に広く親しまれてきたマリントワーの保存、活用を図り、開港150周年に向け横浜のシンボルとして再生します。

2009(平成21)年5月23日(土) リニューアルオープン



リニューアルイメージ

県立新ホール「神奈川芸術劇場」整備

神奈川県県民部文化課 ☎210-3814



山下町地区において、文化芸術の創造発信やにぎわいの創出などの観点から、「神奈川の顔としてふさわしい拠点づくり」をコンセプトとした市街地再開発事業の中で、県立新ホール「神奈川芸術劇場」とNHK横浜放送会館の整備が行われます。

2010(平成22)年 完成予定

神奈川芸術劇場完成イメージ

アメリカ山公園整備

環境創造局緑事業課 ☎671-2632

全国初の立体都市公園制度の活用により、元町・中華街駅舎上部を増築し、隣接する公園用地と一体的に公園として整備し、エレベーターや便益施設等を設置することにより、横浜の代表的な観光スポットである元町・山手地区の回遊性を高め、一層のにぎわいを創出します。

2009(平成21)年6月 完成予定

アメリカ山公園整備イメージ



日本丸メモリアルパーク(第1期地区)リニューアル

港湾局振興事業課 ☎671-2888

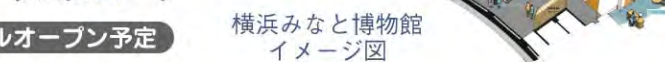


日本丸メモリアルパーク



日本丸メモリアルパークシンボルマーク

2009(平成21)年4月24日 リニューアルオープン予定



横浜みなと博物館イメージ図

日本丸メモリアルパーク(第1期地区)を、「横浜港をテーマとしたフィールドミュージアム(野外博物館)」として、パーク全体のアプローチ空間の刷新、帆船日本丸及び横浜マリタイムミュージアムの展示更新等を行います。このリニューアルに合わせ、パークのシンボルマークが決定、またミュージアムが「横浜みなと博物館」へ名称変更します。

文化芸術創造都市形成

横浜で創造される先端的な文化芸術は、人々の生活を潤し、心を豊かにするとともにオリジナリティあふれる都市の個性となって、国内外から多くの人を集め、この街をにぎやかで活気あふれるものにするでしょう。開港150周年を契機として、創造性をもっとも顕著に表れる文化芸術を街づくりに活かすことで、都市の魅力さをさらに高めます。その刺激を受けた市民が生み出す創造的な発想や活動は、次の世代の横浜を築き上げるための大きな原動力になるはずです。

ナショナルアートパーク構想

創造都市推進課 ☎671-2288

開港150周年を契機に、横浜を象徴する港や歴史的な景観など開港都市としての資源を活かし、文化芸術など創造的な活動が活発に行われるとともに、観光交流拠点として多くの来街者が訪れる魅力的な都心臨海部を形成します。

創造都市横浜推進協議会…

企業や行政など17団体が協働して創造都市形成を推進しています。平成20年2月には、50社以上が参加する企業ネットワークを設立し、相互に交流しながら創造的プロジェクトを展開しています。



ナショナルアートパーク構想エリア

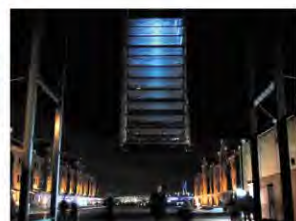
横浜国際映像祭2009

創造都市推進課 ☎671-2278

「映像文化都市・横浜」の新たな取り組みとして、開港150周年を機にメディアアート、CG、アニメ、映画、写真など、様々な映像を対象とした「横浜国際映像祭2009」を開催し、都心臨海部の複数会場で様々な映像作品の制作・上映・展示を行います。



メイン会場（新港ピア）

SHIMURABROS.
“HIBERNATION” (2008)

●横浜国際映像祭2009

会期：2009年10月31日（土）～11月29日（日）
場所：新港ピア、BankART Studio NYKほか

創造界隈

創造都市推進課 ☎671-3504

馬車道、日本大通り、桜木町・野毛を中心とした都心部の歴史的建造物や倉庫、空きオフィス等の地域資源を活用し、アーティストやクリエイターが創作・発表・滞在する創造界隈の形成を進め、まちの活性化を促します。

ヨコハマ・クリエイティブ
シティ・センター

※平成21年5月1日から
中区本町6-50-1 ☎221-0325



旧第一銀行横浜支店を活用。創造都市にかかわる市民・団体等が集い情報の交換が行われる場づくりと市内外への発信を行うほか、アーティスト等創造の担い手をサポートするワンストップの相談窓口「アーツコミッション・ヨコハマ」を設置。

【運営：（財）横浜市
芸術文化振興財団】

急な坂スタジオ

西区老松町26-1 ☎250-5388



市の公共施設（旧老松会館）を活用。舞台芸術を中心とした創造活動の場として、長期のスタジオ貸し出しや、舞台芸術に関するワークショップ・イベントを開催。

【運営：NPO法人
アートプラットフォーム】

BankART Studio NYK

中区海岸通3-9 ☎663-2812



日本郵船横浜海岸通倉庫を活用。多目的スペースをイベント・展示会等に貸し出すほか、多くの主催イベントを実施。あわせて様々な仕様のスタジオをアーティストの制作場所として提供。

【運営：NPO法人BankART1929】

ZAIM

中区日本大通34 ☎222-7030



旧関東財務局を活用。アートNPO等の活動・交流支援を目的に、アーティストに制作場所を提供。

【運営：（財）横浜市
芸術文化振興財団】

黄金スタジオ・日ノ出スタジオ

中区黄金町地区 ☎261-5467



黄金スタジオ



日ノ出スタジオ

京浜急行高架下に文化芸術スタジオを建設。周辺の小規模空き店舗と共に、アーティストやショップに貸し出し、黄金町地区のまちづくりと一体となった活動を展開。9月に「黄金町バザール2009」を開催予定。

【運営：NPO法人黄金町エリア
マネジメントセンター】

象の鼻テラス

中区海岸通1-1 ☎671-2288

開港150周年記念事業である「象の鼻パーク」内にオープン(2009(平成21)年6月2日)。年間を通して港の歴史やアート作品の展示を行うほか、音楽等のパフォーマンスイベントを実施。観光インフォメーションやカフェ併設の休憩スペースを備える。(完成イメージ図→P16参照)

世界創造都市会議（仮称）

創造都市推進課 ☎671-3868

横浜市がこれまで進めてきたクリエイティブシティ・ヨコハマの取組を国内・外に発信するとともに、今後の創造都市の新たな方向性及び戦略を国内・外の多様な参加者で検討する国際会議を開催します。会期にあわせて市内のNPO、教育機関等が実施する事業と連携し、参加者間のネットワークづくりをはかり、創造都市の取組の推進をはかります。

テーマ：「創造性は都市の未来を救う(仮)」

日程：平成21年9月4日(金)～6日(日)

会場：横浜開港記念会館、ヨコハマ・クリエイティブシティ・センターほか

主催：実行委員会、横浜市、(財)横浜市芸術文化振興財団、創造都市横浜推進協議会



創造都市交流シンポジウム2007



横浜クリエイティブシティ・シンポジウム2008

創造の担い手育成

創造都市推進課 ☎671-3503

文化芸術と社会をつなぐ市民やNPO等の創造の担い手を育成します。

●アーティスト・クリエイターの創造的活動の支援・発信

様々な分野の新進アーティストを発掘・育成し、活動機会を提供します。また、制作過程の公開や公演等を通じ、文化芸術の裾野を拡げ、その取り組みを内外に発信します。

横浜オペラ未来プロジェクト

公演：2009(平成21)年7月17日(金)、18日(土)「フィガロの結婚」会場：横浜みなとみらいホール

横浜未来演劇人シアター

公演：2009(平成21)年 2回程度予定

横浜音楽空間

2009(平成21)年開催予定：伊勢佐木町商店街、馬車道商店街等を予定

●開港150周年を契機とした、創造都市の取り組みの継続的な発信

文化芸術創造都市・横浜の継続的な内外への発信とともに、マザーポートエリアのにぎわいの創出に向け、2009(平成21)年に「マザーポートアートフェスティバル（仮称）」の開催を予定しています。

●国内・外の創造都市との交流を通じた担い手育成

アーティスト、クリエイター、アートNPO等による国内・外の創造都市との交流を行い、創造都市の担い手の育成と未来に向けた多様なネットワークの形成を図ります。



横浜オペラ未来プロジェクト2008

ナント・横浜
日仏都市文化対話
シンポジウム

まちづくり

横浜駅周辺大改造計画

都市整備局都市再生推進課 ☎671-3857

安全安心が実感できるまち、新たな環境の創造に取り組んでいくことなどを基本理念とし、まちの再生を図ります。海、川、風を意識した横浜らしい、魅力のあるイベント広場や水・緑豊かなシンボル空間等の形成をすすめ、世界に誇れる横浜都心の玄関口としてのまちづくりを進めます。

2009(平成21)年 まちづくりガイドライン策定



横浜駅周辺地区

みなとみらい21環境整備

都市整備局みなとみらい21推進課 ☎671-3612

みなとみらい21地区の玄関口である桜木町駅前広場において、シンボルツリーの植樹を行うほか、官民協働により「動く歩道」へのソーラーパネルを設置し再生可能エネルギーの普及促進を図るなど、脱温暖化に向けた取り組みを実施します。

2008(平成20)年度 完成

戸塚駅周辺地区整備

都市整備局戸塚駅周辺再開発事務所 ☎864-2621

1日27万人という市内第2位の乗降客を有する交通ターミナルにふさわしいまちづくりを目指し、戸塚駅西口で道路・交通広場などの公共施設や、区役所、文化施設など公益施設の整備を進めると共に、商業機能の強化を目指した市街地再開発を進めます。



戸塚駅西口周辺地区完成予想図

第1交通広場 2009(平成21)年秋 供用予定

商業施設 2010(平成22)年春 完成予定

第2交通広場・公益施設 2012(平成24)年秋 完成予定

まちのバリアフリー推進

健康福祉局福祉保健課 ☎671-2387



大船駅(北改札)エレベーター設置

誰もが安心・安全に行動できるよう、鉄道駅舎へのエレベーターや多目的トイレの設置、ノンステップバスなどの導入を進めます。また道路や建築物、公園、駐車場など、まち全体を面的にバリアフリー化する施策を進めます。

2010(平成22)年までに、エレベーター等を市内157駅中136駅に設置、ノンステップバスを950台導入

市内米軍施設の返還と跡地利用の推進

都市経営局基地対策課 ☎671-2168

開港150周年を契機に、市内米軍施設の返還が促進されるよう引き続き国に要請していきます。また、提案公募事業の実施とともに、寄せられた市民意見等を踏まえながら、地球温暖化対策のための公園・緑地等の確保や、広域防災拠点の整備など跡地利用の具体化を進めていきます。



平成17年12月に返還された旧小柴貯油施設 ⇒ P24参照

歴史的・文化的資産を活用した魅力ある公園づくり

環境創造局緑事業課 ☎671-2653



市指定文化財である野島公園内の「旧伊藤博文金沢別邸」を伊藤博文公没後100年にあわせて復元します。また、国の重要文化財である「旧住友家俣野別邸」を住友邸庭園(仮称)として整備します。

「旧伊藤博文金沢別邸」(写真) 楠山永雄氏 所蔵

旧伊藤博文邸 2009(平成21)年秋 完成予定 旧住友邸庭園 2010(平成22)年春 完成予定

羽田空港の国際化

都市経営局政策課 ☎671-3978

羽田空港再拡張工事が円滑に進むよう、国や他都県市とともに取り組みます。また、国際化後の羽田空港の国際線の就航範囲が東アジアの主要都市をカバーするよう、積極的に国に働きかけていきます。

2010(平成22)年 供用開始予定

企業立地の促進

経済観光局誘致・国際経済課 ☎671-2594

優れた交通アクセスや豊富な人材等の利点を活かし、企業誘致・立地等の促進を図っています。これまで日産自動車本社や富士ゼロックスR&D拠点など、大きな経済波及効果が期待でき、横浜ブランドの向上に資する企業の誘致に成功してきました。今後も、一層の立地等促進を図り、市民雇用の増大など横浜経済の活性化につなげていきます。

子どもから高齢者まで、また市民活動団体や企業など、多くの市民が力を発揮し、開港150周年に向けて芸術やスポーツ、環境、福祉活動など多様な「イベント・プロジェクト」を展開していきます。

横浜市は、市民レベルの交流支援、市内各地域の歴史や風土、個性を活かした地域への愛着を深める取り組みを積極的に応援し、市民とともに進めていきます。

創造都市の地域展開

開港150周年を契機として、文化芸術の持つ創造性を活かした取り組みを地域で展開し、全市域で「文化芸術創造都市・横浜」の魅力づくりを進めることによって、次世代に向けて「住みたくなる都市」「住んでいて誇りに思える都市」を築いていきます。

クラシック・ヨコハマの開催

市民活力推進局文化振興課 ☎671-3714



クラシック音楽振興とまちづくりを結びつける取り組みとして、全日本学生音楽コンクール出演者らが出演する質の高いコンサートを身近に楽しむ音楽祭を開催します。

主なコンサート

- ・第63回全日本学生音楽コンクール全国大会in横浜 (横浜みなとみらいホール) 2009(平成21)年11月26日～12月1日
- ・サロンコンサート・ブリッジ(池田シュバリエサロン他) 2009(平成21)年11月上旬～2010年(平成22)年1月末

2009(平成21)年11月～2010(平成22)年1月開催

文化芸術の創造性を活かした地域づくり

市民活力推進局文化振興課 ☎671-3714

文化芸術が持つ創造性を発揮することで、市民、NPOが地域福祉や青少年育成など地域の課題解決に対して、新たな発想で取り組む事業を市内全域で展開します。

2009(平成21)年 18事業実施

横浜あかりアーツコラボレーション

(財)横浜市芸術文化振興財団 ☎221-0212

照明デザイナー石井幹子氏による最先端の「あかり」と、日中韓の古典舞踊とのコラボレーションによる新しい都市型アートイベントを開催します。



2009(平成21)年秋頃 みなとみらい21地区にて実施予定

横浜アートサイト連携事業

市民活力推進局文化振興課 ☎671-3714

市民・NPO等による、横浜の歴史や自然、街並みなどの地域資源を活用した作品制作や、アーティストと市民との交流等を行うアート活動「アートサイト」を市内各地で展開します。

2009(平成21)年6月～12月 横浜アートサイト2009開催

市民イベントの展開

開港150周年に、市民自らが参加し、様々な市民イベントの展開を応援する仕組みとして「Y150市民参加プラットフォーム」があります。

開港150周年を契機として、市民が主役となった「横浜らしい、横浜ならではの」イベントを市内全域で展開することを目的としています。

イベントを実施するために必要となる情報・人材・場所・資金などの多様な面で、市民のイベントづくりを支援する仕組みです。

「Y150市民参加プラットフォーム」の主な支援内容

Y150市民参加プラットフォーム推進委員会 ☎489-4767

●ハマっ子イベント大賞

市民から募集したイベント企画のうちの優秀作品に制作費を補助するとともに、発表の場を提供しました。

大賞受賞企画

【展示部門】

- ・横浜海の散歩(海をつくる会)
- ・横浜から！手をつなごう世界に広げみんなのワ(和・輪) (国際交流ゆめプロジェクト)

【ステージ部門】

- ・まち・みらい・ゆめ～U-19シンポジウム(NPO法人ミニシティ・プラス)
- ・横浜夢語り ワンコイン朗読音楽ライブ(横浜夢語りプロジェクト)



●横浜のイベントをエコにするためのネットワーク

エコを視点としたイベント主催者や事業者などのネットワークです。横浜で行われるイベントを環境に優しいものとし、環境に負荷をかけないという文化を目指します。

エコステーション

横浜開港祭などのイベントを通じ、飲食用の食器を食洗器によって再利用します。



イベント人材育成

エコイベントに関するスキルアップを目的としてボランティアを育成しています。



エコステーション

●道志村間伐材プロジェクト

横浜市の水源である道志村の間伐材を活用したものづくり体験を実施します。また森林や間伐などを素材に、「自然」と「生活」のつながりについても子どもたちに知ってもらいます。

●広報、情報提供

ベリーの鼻 (<http://www.kaikou150.jp/>)

イベントづくりに役立つ情報や開港150周年関連のイベント情報の発信のためのウェブサイト運営しています。

横浜地域SNSハマっち (<http://sns.yokohama150.jp/>)

市民のイベントづくりを支援するための情報・コミュニケーション基盤として、地域SNSを運営しています。

SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)とは…

地域における市民や団体同士のリアルな関係をインターネット上のサービス内でも可視化・共有化し、それを利用してお互いの情報共有やコミュニケーションを促進するサービス(情報基盤)。



●市民参加プラットフォーム窓口

開港150周年に参加したいという市民ニーズ(自分でイベントを企画してみたい、イベントに参加したい、ボランティアとして手伝いたい、少しでも何かに関わりたい)にワンストップで対応する市民参加の(相談)窓口を構築します。

「Y150市民参加プラットフォーム」をどんどん活用していただき、多くの市民が参加できるイベントを皆様の手で創り出してください。

市民による人の輪と緑にあふれた街づくり

開港150周年に向けて、はまっ子のパワーを内外に発信するために、市民が主役となったスポーツや音楽、歴史等多岐にわたる150の「市民イベント」を展開し、市民同士の交流を図ります。また、市民が主体となって、横浜の自然を未来へ引き継いでいく活動を通して、緑豊かな都市を目指します。

横浜の自然や環境を次世代に引き継いでいく活動

● 150万本植樹行動へのチャレンジと開港150周年の森づくりスタート

環境創造局環境政策課 ☎671-2688



ドングリの苗木づくり

横浜市では、急速な市街化により緑被率が市の面積の31%まで減少しています。そこで、市民・事業者・行政が協働して平成21年度までに市内に150万本の木を植えることにチャレンジしています。



旧小柴貯油施設（開港150周年の森）



また、旧小柴貯油施設を開港150周年を記念した「開港150周年の森（都市公園）」とし、市民参加の植樹祭を行うとともに、市内各所でも大小さまざまな森づくりを行います。



150万本植樹行動宣言

暮らしに緑を、街に緑を、緑豊かな環境を次世代へ、150万本植樹行動をとおして、361万市民が緑豊かな横浜をつくりまします。平成19年1月5日 横浜市長

あなたが木を植えたら教えてください！

150万本の植樹を達成していくため、市民の皆さんが庭やベランダ等に植えた樹木の登録を募集しています。

★詳しくはホームページ

● 「たまくすプロジェクト」 樹勢回復記念植樹事業（150万本植樹事業）

教育委員会事務局文化財課 ☎671-3284

横浜開港資料館の中庭にある、近年、樹勢が衰えつつある通称「たまくす」（タブの木）の樹勢回復を図るとともに、たまくすの苗木を市民が育て、2009（平成21）年に記念植樹を行います。

2009（平成21）年9月 実施予定

たまくすの木とは…

嘉永7（1854）年、ペリー来航を描いた「横浜上陸」絵に描かれている木と考えられることからハマの生き証人とも言われ、さらに2度の災害から復活したことから、復活のシンボルとしても市民から親しまれています。



たまくすの木

コラボレーションフォーラム

市民活力推進局協働推進課 ☎671-3625

「開港150周年に向けた協働の都市づくり」に向け、子育て・福祉・まちづくり・環境など市民の身近な地域課題の解決に向けた様々な取り組みや、協働の考え方や進め方について、市民・行政が一堂に会し、話し合います。

2009（平成21）年度 開催予定



開港5都市景観まちづくり会議

都市整備局都市デザイン室 ☎671-3470

開港5都市の市民団体等が、歴史や文化を尊重し、まちなみの形成やまちづくりに取り組む活動をお互いに確認しあい交流を図るために、情報交換や議論を行います。

2009（平成21）年 9月11日（金）～13日（日）

開港5都市とは…

1858（安政5）年、日米修好通商条約により開港した、函館・新潟・横浜・神戸・長崎のこと



障害者スポーツ文化事業

健康福祉局障害福祉課 ☎671-3602



横浜開港150周年を契機として、障害者を含め誰もが一緒にスポーツや文化活動を楽しめる都市を目指して、様々なイベントの実施を支援します。

【イベント内容】

スポーツ：グラウンドゴルフ大会、ヨット体験、ポールウォーキングイベント、車いすバスケット体験等
文化：アダプテッドダンスイベント、バリアフリーミュージカルコンサート、木のおもちゃランド等

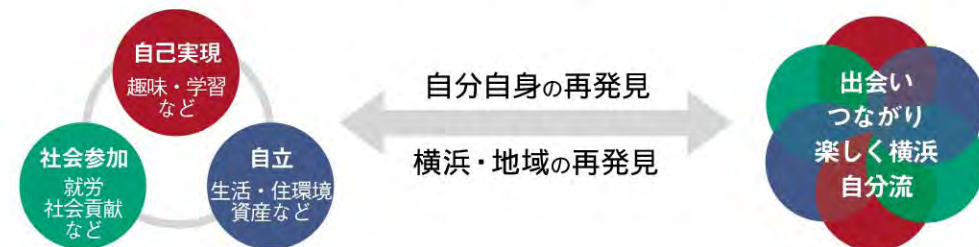
2008（平成20）年5月～2009（平成21）年12月 パシフィコ横浜、三ツ沢公園、横浜ラポール ほか

ライフデザインフェア

市民活力推進局協働推進課 ☎671-3625

主に50代以降の市民に対して、自分にふさわしい生活様式や身近で行われている趣味や活動など、豊かな地域生活に向けた新たな人生設計のヒントを提案します。

2009（平成21）年10月下旬



「はまっ子どうし」事業

水道局お客様サービス推進部 ☎671-3963

「はまっ子どうし」は、世界の船乗りから「赤道を越えても腐らないおいしい水」と120年も前から称賛されてきた横浜の水道水の水源、山梨県道志村の森が育んだ清流です。

国際貿易港「横浜」のオフィシャルウォーターとして「水のおいしい都市、環境行動都市」をアピールしています。



「はまっ子どうし」



「はまっ子どうし」の水源、道志川山梨県道志村



地域の魅力を高め、愛着を深める取り組み

開港150周年・市政120周年を契機に、横浜市全体はもちろん、各区ならではの個性的で元気あふれるイベントや記念事業のほか、周年事業などを協働で展開し、魅力を高め、愛着を深めるようにしていきます。

まちづくり

各区では、地域の資源や文化を活かして、地域の魅力を再発見し、愛着を深める取り組みや、区民が主体となってまちづくりを進め、魅力あるまちを創っていきます。



神奈川区
わが町 かながわ 小旅行



西区
わがまち西区フェスティバル



港南区
ふるさと港南のまち自慢



青葉区
あおばチューリップまつり



都筑区
モザイク壁画コンテスト

- その他の代表的な事業
- ・ 緑区
横浜線開通100周年事業など

歴史や伝統芸能

各地域には、名所・旧跡や古くから歴史ある伝統芸能をつうじて、各地域への愛着を深めるとともに、大切な区の資産を次世代へ継承していきます。



泉区
いずみ歌舞伎



戸塚区
市指定無形民俗文化財 お礼まき



磯子区
いそご芸術文化祭



瀬谷区
鎌倉古道

- その他の代表的な事業
- ・ 金沢区 「横浜金澤七福神スタンプラリー」 など

スポーツ・音楽・芸術

各地域には子どもから大人まで楽しめるようなイベントを数多く実施しています。スポーツや音楽・芸術活動を通して、区民の交流や区の多様性をアピールします。



保土ヶ谷区
区民大合唱



中区
中区民ミュージカル



港北区
港北駅伝大会

旭区
旭ジャズまつり



- その他の代表的な事業

- ・ 港南区 こうなんストリートダンスコンテスト
- ・ 保土ヶ谷区 かるがもファミリーマラソン大会 など

元気あふれるイベント

区民まつりや花火大会等は、毎年多くの区民でにぎわいます。イベントをつうじて区民同士の交流や地域を盛り上げていくような記念事業を行います。



鶴見区
三ツ池公園(文化・環境)フェスティバル



金沢区
金沢まつり



南区
南区桜まつり



栄区
SAKAEヤングフェスティバル



緑区
緑区民まつり

- その他の代表的な事業
- ・ 瀬谷区 セヤキッズデイ など

区の周年事業

- 2008(平成20)年度 区制60周年(金沢)
- 2009(平成21)年度 区制70周年(港北・戸塚)
- 区制40周年(港南・旭・緑・瀬谷)



横浜の将来を担う、国際性を持った人材、科学技術の振興や産業界の発展を導く人材を育てていくとともに、地域社会全体で子育てを応援するような仕組みづくりを行っています。

次世代の国際人育成に向けた取り組みの推進

小中一貫英語教育の推進

教育委員会事務局小中学校教育課 ☎671-3588

地域特性を活かした語学教育戦略を進めるために、国語教育を充実するとともに、小中学校で一貫した英語教育を推進し、国際都市・横浜の未来を担う人材を育成します。

- ・全小学校に、英語指導助手(AET)を配置し、英語指導を行う。
- ・全小学校に、小学校国際理解教室外国人非常勤講師(IUI)を派遣し、異文化理解の指導を行う。

2009(平成21)年度までに全小学校で全学年導入予定



英語活動授業風景《横浜市立立野小学校》

世界子どもスポーツサミットin横浜

市民活力推進局スポーツ振興課 ☎640-5539



イメージ

世界の子どもたちがスポーツを通して平和や環境について話し合います。その成果として《こどもスポーツ宣言》を発信し、開港150周年を迎えた国際都市・横浜を国内外にアピールします。

- ・開催期日 2009(平成21)年8月21日(金)
- ・開催場所 パシフィコ横浜
- ・参加者数 800名[国内500名、海外300名](予定)

カナダ・バンクーバー市の高校生と市立高校生の国際交流

教育委員会事務局高等学校教育課 ☎671-3272

市立みなと総合高校と相互交流を行っているカナダ・バンクーバー市の高校生が、市立高校での授業参加やディスカッション、ホームステイなどを通じて市立高校生との交流を図ります。

2009(平成21)年5月7日(木)～18日(月)12日間(予定)

150周年記念副読本「よこはま大百科(仮称)」の作成

教育委員会事務局小中学校教育課 ☎671-3266

横浜の子どもたちが、「よこはま」の価値を再確認し、日本の文化や伝統を尊重しながら国際社会の発展に貢献できるよう、社会科の時間に加え、「横浜の時間」等で活用できる副読本を作成します。

2009(平成21)年6月 発行予定

元気な横浜を創造する 人材育成に向けた取り組みの推進

起業家育成・支援

経済観光局経営・創業支援課 ☎671-3828

将来の横浜経済を担う人材育成のために、啓発イベントや各種セミナーを通じて、アントレプレナーシップ(起業家精神)の醸成に取り組みます。

2010(平成22)年度まで実施

横浜サイエンスフロンティア高等学校の整備

教育委員会事務局横浜サイエンスフロンティア高校開設準備室 ☎671-4378

「先端科学技術の知識を活用して、世界で幅広く活躍する人間」の育成を目指す、県内で初めてとなる理数科の専門学科高校として、横浜サイエンスフロンティア高等学校が鶴見区に開校します。

2009(平成21)年4月5日 開校記念式典

横浜サイエンスフロンティア
高等学校の完成イメージ(模型)



芸術文化教育プログラム

市民活力推進局文化振興課 ☎671-3714



様々なジャンルのアーティストを学校に派遣し、アーティストとの交流や創造体験を通じて、次代を担う子どもたちのコミュニケーション力などを育みます。

2009(平成21)年度80校 2010(平成22)年度100校にアーティストを派遣

芸術文化教育プログラム
「パペットを通して表現してみよう」の授業風景

地域社会全体で子育てを応援する 取り組みの推進

子育て家庭応援事業「ハマハグ」

こども青少年局企画調整課 ☎671-4281

地域社会全体で子育てをあたたく見守り、応援する輪を広げ、「子育てにやさしいまちヨコハマ」という新たな横浜の魅力、「まち全体で子育てを見守る」という新たな文化を市民、企業、行政が協働で創りあげていきます。

小学生以下の子どもがいる家庭の方、妊娠中の方(横浜市内に在住、在勤、在学であることを問わない)が、協賛店・施設で、設備・備品の利用や割引・優待など、子育てを応援するサービスを受けられる仕組みをつくります。

【サービス内容(例)】

- モットスポット(ちょっとした心配り)
ベビーカーでの入店の配慮、荷物の一時預かり、飲食店での離乳食の持込可など
- ホッとスポット(設備・備品)
授乳スペース、おむつ交換台、トイレの貸出、粉ミルクのお湯の提供など
- グッとスポット(割引・優待)
通常料金からの割引、飲食店でのドリンクやデザートが無償提供、子どもへの無料プレゼントなど

【利用方法】

携帯サイト、ホームページ上で必要事項を入力して「登録証」をダウンロードし、ステッカーのある協賛店・施設で「登録証」を提示するとサービスを利用できます。

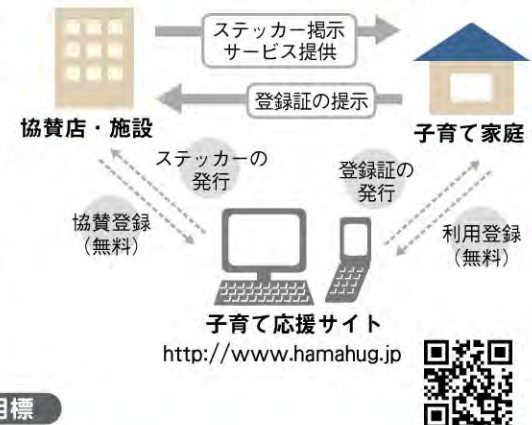
また、協賛店・施設やサービス内容の情報は、携帯サイト、ホームページから検索ができます。

※利用登録は無料です。
※郵送でも登録できます。詳しくは、こども青少年局企画調整課にお問い合わせください。
※サービス内容によっては、「登録証」の提示を省略する場合や、「登録証」以外に別の方法であわせて確認をさせていただく場合があります。

2009(平成21)年度末までに3,500店舗・施設を目標



©やなせたかし/フレール館・TMS・NTV



開港150周年を迎え さらなる国際的な 発信力を高めていくための 都市戦略の取り組み

開港以来、横浜は、わが国の情報発信の窓口として世界と結ばれた都市であり、様々な外国文化を取り入れ、日本の近代化を進める国際港都として発展してきました。今後も、進取の気風と開放性に富んだ市民性を最大限に活かしながら、環境・経済・国際貢献などの分野の大型国際コンベンションを積極的に誘致・開催し、国際都市・横浜を世界に発信するとともに、より国際性豊かな都市へのステージアップにつなげていきます。

ポート・タウン・フェスティバル

戦略的的事业誘致課 ☎671-3836

2008(平成20)年は、横浜・新潟・函館・神戸・長崎の開港が定められた「安政の5カ国条約」締結から、ちょうど150年にあたります。
これを記念し、横浜赤レンガ倉庫で6月にポート・タウン・フェスティバルを開催しました。これは横浜開港150周年を1年後に控え、「日本近代化の原点の地」ともいえる開港5都市と、条約締結相手国である、アメリカ・イギリス・オランダ・フランス・ロシアという国々が「開港の街 横浜」に集まることによって、5都市5カ国による、新たな交流を構築する契機とすべく行ったものです。2009(平成21)年の横浜開港150周年への弾みにもなりました。



開港5都市市長会議(2008年6月)

左から、
田上・長崎市長、矢田・神戸市長、
中田・横浜市長、篠田・新潟市長、
西尾・函館市長

- ・開港5都市市長会議 平成20年6月21日(土)
- ・開港5都市市民会議 <<環境市民会議 平成20年6月14日(土)>>
<<観光市民会議 平成20年6月20日(金)>>
- ・屋内展示(5都市5カ国展示) 平成20年6月14日(土)~22日(日)
- ・屋外交流イベント(5都市5カ国の物産展や伝統芸能など紹介) 平成20年6月20日(金)~22日(日)

2009年シティネット横浜大会の開催

都市経営局国際政策課 ☎671-3826

シティネット(アジア太平洋都市間協力ネットワーク)は、アジア太平洋地域の都市問題の解決・改善に向け、都市・NGOの相互理解を深め、ネットワークを活かした協力を行なうために設立され、4年に1度の総会が2009年に横浜で開催されます。

環境と衛生、ミレニアム開発目標、インフラ、情報伝達技術、防災の5分野を中心に活動を行っており、会期中は会議のほか、市民向けセミナーなども実施する予定です。

- ・開催期間 2009(平成21)年9月7日(月)~11日(金)
- ・開催場所 パシフィコ横浜会議センター

2010年APEC首脳会議の誘致

戦略的的事业誘致課 ☎671-3802



第4回アフリカ開発会議(2008年5月)

多彩なイベントを50以上開催した「アフリカ月間」は、市民参加による大きな盛り上がりを見せ、横浜のホスピタリティを大いに示すものとなりました。

横浜市は、開港150周年の翌年、2010(平成22)年に開催されるAPEC(アジア太平洋経済協力)首脳会議を誘致しています。APECの日本開催は95年の大阪以来2回目。約1週間の開催期間中に訪れる参加者数は7,500~8,000名に及び、世界最大級の国際会議です。

横浜市では、2008(平成20)年5月に、アフリカの41名の国家元首・首脳級を含む51か国や、34か国のアジア・欧米諸国、74の国際機関等の代表、民間セクターやNGO等市民社会の代表等3,000名以上が参加し、我が国外交史上類を見ない大規模な国際会議となった第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)の開催地として、会議の成功に貢献し、大型国際会議の開催能力を国内外に広く示しました。

APEC首脳会議の誘致実現は、この第4回アフリカ開発会議に続く大型国際会議の開催となり、横浜の国際コンベンション都市としての地位を一層高めるとともに、横浜が開港150周年後の次の50年に向けて、国際都市として踏み出す重要な第一歩となります。

APEC

(アジア太平洋経済協力)の概要

アジア太平洋地域の持続可能な発展を目的とし、域内の全主要国・地域が参加するフォーラム。1989年11月の第1回閣僚会合をもって発足、1993年以降首脳会議を毎年開催しています。域内の貿易投資の自由化・円滑化、経済・技術協力を主要な活動としています。2001年の同時多発テロ以降は、テロ対策が主要な課題として定着。メンバーは21か国・地域から成り、経済規模は世界の国内総生産(GDP)の約6割、人口は約4割を占めています。2010年の首脳・閣僚会議の日本開催が決定しています。



- 会議開催時期(予定)
2010(平成22)年秋
- 会議決定時期
2009(平成21)年春頃と想定
- 参加メンバー
ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム、日本、韓国、中国、チャイニーズ・タイペイ、中国香港、メキシコ、パプアニューギニア、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、カナダ、ペルー、チリ、ロシアの21か国・地域



世界最大級の複合コンベンション施設「パシフィコ横浜」